

行政視察報告書

令和7年 6 月 6 日

長浜市議会議長 高山 亨 様

長浜市議会議員

岩川 信子

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1. 視察等名 令和7年度議会活性化検討委員会行政視察研修
2. 視察期間 令和7年5月27日（火）
3. 視察場所及び目的
三重県いなべ市
議会における行政評価について
4. 調査内容感想等

・視察の目的

人口減少社会における持続可能な自治体運営を支えるには、「見える行政」「信頼される議会」が不可欠です。

本視察は、いなべ市が取り組む行政評価と、それを積極的に活用する議会の姿勢、加えて「議会評価制度」や「住民との対話の場づくり」、「広報広聴の強化」など議会改革を総合的に進めている先進事例を学び、長浜議会の改善に向けたヒントを得る事を目的としました。



議会と行政を明確に分けるため別棟に建てられている

二元代表制の理念が建物の構造にあらわれています。



長 浜 市 議 会

・ 視察内容

いなべ市では、行政による全庁的な事業評価が実施されており、各事業において KPI（重要業績評価指標）を設定し、その成果を定期的に検証しています。評価結果は毎年度「評価報告書」として議会に提出され、常任委員会ごとに内容が審査されます。こうした仕組みにより、議会における評価の活用は単なるチェックにとどまらず、評価結果を踏まえた政策提言や改善提案へと発展しており、議会と行政との建設的な対話の土台となっています。

また、いなべ市議会では、議員一人ひとりの活動実績や本会議・委員会での発言回数などをもとに、客観的な「議員評価制度」を導入しています。この制度は、議会の可視化と説明責任を果たすための仕組みとして市民からも高く評価されており、議員自身も「見られている」ことを意識することで、日々の活動に対する責任感や緊張感が生まれ、議会全体の質の向上にもつながっています。

さらに、議会と市民との間の対話を促進する取り組みとして、「みんなのカフェ」が定期的に行われています。この取り組みは、テーマを設けた自由参加型の意見交換の場であり、市民と議員が気軽に話せる空間として機能しています。こうした対話を通じて、市民の声がダイレクトに議会質問や政策提案に反映される仕組みが構築されており、議会に対する親近感や信頼の醸成にもつながっています。

加えて、議会の情報発信と市民意見の集約を担う「広報広聴委員会」も、いなべ市議会の特徴的な取り組みのひとつです。特筆すべきは、その委員構成において、各常任委員会の委員長および副委員長が兼務している点であり、各分野の政策に精通した議員が広報広聴活動にも関与することで、情報発信の内容に深みと実効性が生まれています。議会だよりの充実や SNS の積極的な活用など、市民との双方向のコミュニケーションを意識した姿勢が一貫して見られ、開かれた議会運営に大きく寄与しています。



長浜市への活用提案

視察内容	長浜市への提案
行政評価	施策ごとの目標設定と KPI による評価制度を導入し、議会・市民に公表。議会としても評価を政策形成に活用できる体制を整える。
議員評価	議員の活動を可視化し、市民との信頼関係を構築するための評価制度の試行導入を検討。透明性の確保と議会の質向上へ。
みんなのカフェ	市民と議員が気軽に意見交換できる場を設け、政策提言の材料収集や市民参加の促進を図る。
広報広聴委員会の構成	各常任委員会の委員長・副委員長を広報広聴委員に充てるなど、政策と広報の連動を高める体制へ見直しを検討。

気づきや・感想として

評価を「見せる」だけでなく、「活かす」文化が定着している点は非常に印象的であり、議会が自らのあり方を問い直し、議員評価や市民との対話の場を制度として確立していることは、他の自治体でも十分に応用可能な好事例といえます。さらに、委員会構成に工夫を凝らし、広報広聴活動と政策活動を一体的に進める仕組みは、長浜市においても導入の可能性が高く、今後の議会運営の在り方を検討するうえで大いに参考になる取り組みといえ進めて行くべきと思います。

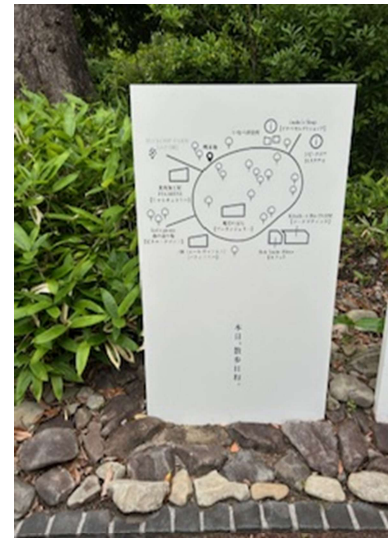


いなべ市議会には、防音仕様の親子室が設けられており、親子連れでもガラス越しに安心して傍聴できます。以前、私が産業建設常任委員会で日立市でも同様の設備が整っており、誰もが議会に参加しやすい環境づくりが進められていました。

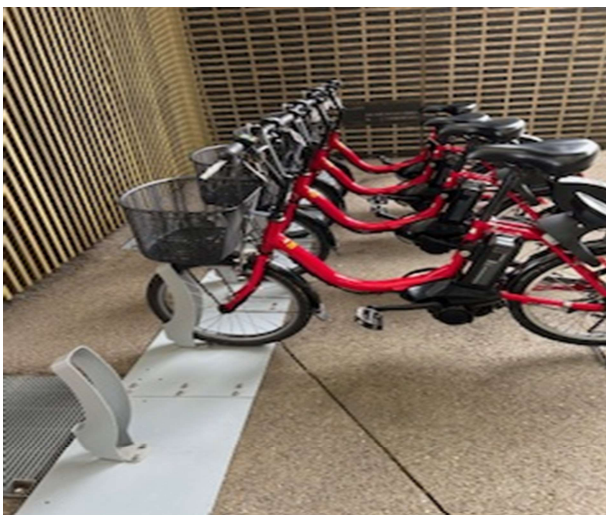


いなべ市北勢町阿下喜にある「にぎわいの森」は、市民や来訪者の憩いと交流を目的に整備された複合施設です。木を多用した温もりのある建物と広場が特徴で、「森のような広場」として親しまれ

ています。(市役所と隣接しています。)



敷地内には、地元食材を使ったレストランやカフェ、パン工房、雑貨店などが並び、観光客だけでなく市民の日常利用にも対応。マルシェやワークショップも定期的で開催され、世代を超えた交流の場としてにぎわいを生んでいます。



いなべ市の「いなチャリ」は、ICTの活用によって市民・観光客の移動を支える好事例であり、交通の利便性向上だけでなく、地域の回遊性や滞在時間の延伸にも寄与していると感じました。長浜市においても、観光地間の移動や高齢者の外出支援、また脱炭素社会に向けた施策の一環として、自転車シェアの導入を検討する価値があると考えます。特に、ス

martフォンを活用した予約システムやヘルメット貸出など、安全性と利便性を両立させた点は、導入時の参考になる要素です。